

その他寄稿

新入生ガイダンスと電子メール

長谷川 和彦 (工学研究科 船舶海洋工学専攻)

(hase@naoe.eng.osaka-u.ac.jp)

1. はじめに

今春、前任者からの勧めで、新入生のガイダンスに電子メールを利用することを試みた。その結果を評価するのは早すぎるが、編集からの要望もあり、途中経過として報告したい。

電子メールはいまや必需品であり、新入生も入学後すぐに自分のアカウントをもらう。しかし、1年次に情報処理教育がある他学部と違い、工学部では1年次に情報処理科目がなく(除、電子情報エネルギー工学科)、その利用については学生の自主学習に任せるしかない。また、担任側にもただでさえ多いメールにさらに学生からのメールが山のように来るのはかなわない、といった否定的意見も散見した。こうした状況の中、とにかく、担任に理解してもらわないといけないということで担任に対するガイダンスの説明会の時、電子メールの利用の例をあげ、積極的な利用をお願いした。それとは別に各組の情報処理の担当教官に集まっていたいて同様の趣旨説明を行ったあと、担任からの例えばメーリングリスト作成の依頼に対して技術的協力をお願いした。

幸い、すぐに次々と各クラスの情報処理担当教官により、学生だけ、担任だけ、そして、学生と担任を含む全員のメーリングリストができた旨の報告が入ってきた。その後は、以下に述べる事例の通りの利用実態である。

2. 利用実態

こうして用意されたメーリングリストや電子メールはどのように利用されたのであろうか。たった数ヶ月間のなかでほとんど懐疑的であったが、夏休みに入ってから各担任宛に実績を報告してもらった。以下は、担任からの情報をもとにクラス別(順不同、特にクラス名等を隠す必要はないが、余計な情報が入る必要もないので一部の情報は伏せた)に整理したものである。

● A 学科 1 組

クラス全員に送信

1. 4月X日のクラスコンパの案内
2. 5月Y日特別講演会の案内
3. 10月Z日合宿研修に関するアンケート、学生からの個別の問い合わせ
4. 基礎セミナー受講に関する相談(吹田地区実施の基礎セミナーの開始時間に間に合わない)
5. 特定の講義内容に関する質問

その他: クラス代表が、自宅でも電子メールを使用しているので、3.のアンケート実施等(必修科目の後などの時間を利用してもらう)の依頼が容易にできる。(ただし、学生からのメールによる直接回答はほとんどなかった。)

ある学生の意見:「センターの端末の絶対数が少なく、電子メールから縁遠くなっている学生も多数いる。」

- A 学科 2 組

クラス全員を対象に送信

- クラスコンパの連絡がスムーズにいった。
- 授業に関する質問。特に講義場所(工学部内)に関する質問に迅速・的確に答えることができた。
- 秋の学外イベントの出欠・意見交換が極めて容易になっている。

その他: 残念ながら、電子メールを使ってコミュニケーションを頻繁にするのは特定の人に限られてきた。学生によると、コンピューターの台数が少なく利用可能な時間が取れない。

- A 学科 3 組

3 組では、特にメーリングリストを利用していない。

- A 学科 4 組

クラスのメーリングリストは、以下の時に利用した。

- 入学しての感想をメールで送ってくれるよう指示を出した。
- クラス懇親会(入学当初と 7 月下旬)についての打ち合わせ、連絡、後処理。
- 秋の研修におけるクラス企画についての打ち合わせ、連絡。
- 秋の研修の出欠とり。
- 「共通教育だより」の原稿募集の呼びかけ。
- 保安についての呼びかけ(痴漢があったので注意喚起を促した)。

- B 学科 3 組

- 電子メール

4 月 2 日のガイダンスの際に、全員必ず 1 回はクラス担任宛にメールを送信するよう指示。その後 5 月 8 日の修学指導までの間に、42 名中 35 名の 1 年生から 1 回以上メールがクラス担任宛に届いており、そのすべてに回答を送信している。その大多数はテストメールであったが、中には事務手続や将来の夢等に関する質問、またはガイダンスや修学指導に関する感想も送られてきた。

- メーリングリスト

メールによる情報の発信は容易だが、相手に確実メールが届く保証はなく、また相手がそのメールを読んだかどうかの確認がとれないので、重要な用件や急用などの連絡にはメールを用いないよう注意を促している。また、1 年生は各自自分専用の端末をもっているわけではなく、すべての学生が常時メールをチェックしているとは限らないので、メーリングリストの利用についても特に推奨しておらず、また利用した形跡も見られない。

- B 学科 5 組

秋に行う学外研修について、担任間で連絡を行う際に利用している。

- B 学科 6 組

6 組では現在の所メーリングリストの利用は特にしていない。

学生がどの程度メールを見ているのか疑問である。多くの学生がメールを使っているようであれば、メーリングリストを今後積極的に利用してみようと思う。(これでは、本当は本末転倒ですね。)

- C 学科 1 組

例年であれば「X 概論」の授業の案内、出欠、レポート、苦情承り等々に自分でメーリングリストを作って対応していた。(出欠は授業中に突然キーワードを伝えて、それをそのままメールさせることにより出席と認めることにしている。何せ 200 人を越す授業なので、出欠をその場でとっていたのでは授業時間が無くなる。またキーワードがいつ飛び出すかと言うことで学生が緊張し、少しは無駄話をしなくなる。) 今年は小生担当の授業が 9 月になってしまった関係上未だ使っていないが、9 月には活用する所存である。

X 概論は来年度以降も続くので担任で無くなっても新入生のメーリングリストを作っていただくと有り難い。

担任間のメールやりとりは他クラス同様使用している。

● C 学科 4 組

1. メーリングリストがもっともよく利用されているのは、Y 演習の講義だと思う。課題の配布等に利用しているとの報告を担当の先生より承っている。
2. また、学生に住所録を作成させる際に「メーリングリストがあるので、それを利用すると良い」とクラス代表学生に促しておいた。しかし、実際に学生同士でどれだけ利用されているのかは不明である。
3. 今後は教官側からは秋の学外研修の連絡等に利用する予定である。
4. 余談になるが、一度、メーリングリストからのメールがある学生にだけ届かなかった（エラーメールが返ってきた）ことがあった。原因はその学生の個人のハードディスクの使用量が許容範囲を超えていたことにあったようだ。それ以外は問題なく稼働している。

● C 学科 5 組

今までにメーリングリストを使って、担任側から春のイベントの案内、秋のイベントの予告を出した。また、学生側から春のイベントの確認が来た。メールもメーリングリストももはや無くてはならないものとは思うが、イベントの参加人数や学生からのメールの件数を考えると、本当にこちらからのメールを読んでもらえているかどうか不安である。また、5 組は留学生がいるが、彼らがこちらからのメール（日本語）を読んでも通じているかどうか疑問である。

● D 学科 1 組

1. ガイダンスのころ、第 1 回のクラス懇談会後に初めてのクラス会を計画、クラス代表とクラス全員、そして、担任の間で形式や場所などについて打ち合わせをメーリングリストを用いて行った。
2. 学生からの質問として、「ある組織から学内で就職に有利だから参加するよ」というひつこい勧誘があったが、本当か」、それに対して複数の担任から回答があり、本人も納得したもよう。
3. 秋に行う学外イベントについて、担任間で企画調整を行った。

● D 学科 3 組

特にこれといったものは行っていないが、(学生の)パソコン購入に関する質問が数多く寄せられたので、適宜返信していたが、結構な人数になったので、6 月にパソコンに関する簡単なアドバイス講座を開いた。参加人数は、10 名程度だった。

● D 学科 4 組

教官からの全学生への連絡: 共通教育だよりへの原稿募集を 6 月に流した。実際に学生が投稿したかどうかは把握していない。

－ 学生からの問合せ

1 名の学生から、パソコンの購入に関して問合せがあり、適宜、返事(アドバイス)をした。

－ 学生からの相談

入学当初から、自分の進路について悩んでいる学生が 3 名おり、そのうち 2 名から、相談したい旨の連絡がメールを用いて、担任宛にあった。これらの学生が悩んでいることは 4 月のガイダンスの際から把握しており、いつでも相談に来るように言っておいた。結果的には、相談に来た 2 名については、他分野への進路希望が強く、本年度後期に関しては「休学届」を提出し、現在、再受験に向け勉強を始めている。

3. まとめと今後

各クラスのようにすを伺うことができると思うが、回答のなかったクラスも含めるとほとんどのクラスで担任間の連絡やクラス代表との連絡に電子メールまたはメーリングリストを利用している。また、担任から学生への一方的連絡にはメーリングリストを利用しているものの、学生との双方向情報伝達手段としてメーリングリストを利用しているケースはほとんどないか、また、その実感が無い。

今後、考えるべきは次の点ではなかろうか。

1. 入学時に電子メールが掲示板と同様に授業などに関する重要な情報源となることを示すこと。(そうでなければ単なるチャットとなり、担任には負担)
2. 電子メールの利用法やエチケットについて指導する。(情報を共有する際には特に注意)
3. 個人的相談と全員(時にはクラスや学部を越え)が共有してよい情報の交通整理を担任が行い、共有して良い情報についてはガイダンス委員に適宜報告する。ガイダンス委員は他クラスのメーリングリストに転送したり、ガイダンス室のFAQとしてWebに登録する。)
4. メーリングリストの積極的利用を行い、学生のクラスとしてのまとまりを高め、担任との意志疎通を図る。

また、そのためには、次のことが重要となる。

1. 全学生がいつでも簡単に情報を取り出せること。(現在の情報処理教育センターの端末は電子メールの読み書きを想定したものではなく、プログラミング演習などを想定している。新入生全員に学内ではどこでも使える情報端末を支給(貸与?、販売?)し、自分宛のメールが読めること。現在、試行されているが学外からもとりだせること。)
2. 今回実施したような担任に対する実態報告とともにクラス代表に対しても利用実態の報告をさせ、メールの活用を促す。

3. ガイダンス室と電子メール

もし、クラス担任と学生との電子メールの積極的利用が実現すれば、実はガイダンス室なるものの業務は10分の1くらいになるであろう。ガイダンス室には、教務上の質問(これは我々ガイダンス委員よりは専任の事務官の方が速任)、進路の相談や奨学金申し込みの推薦状作成(新入生に関しては高校の内申書で代用すべき)といった面談しないといけない重要な業務もあるが、残りのほとんどは必要なら電子メールですむはずである。しかも、そのほとんどが担任とのやりとりで解決するとすれば、我々は担任と新入生を電子メールで結びつける援助者の役目を負えばよいと最近、考えるようになった。

最後に、実態調査にご協力いただいた工学部 99 年度入学生の担任各位、メーリングリスト作成などに協力いただいた情報処理担当教官各位にお礼申し上げます。